

1	チーム名 (研究対象領域・教科) 高等部 職業科
2	メンバー 高等部教員 7名
3	チームのテーマ 自分で考え、自分で解決する職業の授業づくり ～キャリアノートを使って・パート2～
4	<p>学級の生徒に願う主体的な姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「働く」ことに関心を持ち、そのために必要な事柄（態度、技能、基本的生活習慣等）を知ることができる。(1-A) ・社会人としての基本的なルールやマナーを理解し、自分に適した進路を選択しようとする態度を身につけることができる。(2-B) ・いろいろな職業や自立した生活について知り、適切な進路を主体的に選択できる。(2-C) ・自分の将来を具体的にイメージし適切な進路を選択し、働くため必要な知識や態度、意欲を身に付けることができる。(3-D) ・自己を知り、他者を尊重しながら前向きに行動できる生徒 (3-E)
5	<p>研究実践の内容</p> <p>～キャリアノートとは～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その時の自分自身の考えていることや思っていること学んだことや自分の成長を記録し、自分を見つめることで、将来の夢や目標を見つけてそれを叶えるための計画を立て、それに向かって進んでいくことを目指している。 ・生徒の発達の段階を踏まえながら系統的・継続的に活用することによって、社会的・職業的自立の基盤となる能力や態度の育成の一助となるノートにする。 <p>(1) 研究の流れ</p> <p>昨年度作成したキャリアノートの活用</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>キャリアノート素案作成 (P)</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>キャリアノートを使った授業 (D)</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>授業を受けて、キャリアノートの内容について話し合い (C)</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>内容の検討 (追加・削除等) (A) → 授業の実施 (再構築)</p> <p style="text-align: center;"><u>PDCAのサイクルを大切にしながら、授業を工夫改善していく。</u></p> <p>(2) キャリアノートの活用の仕方について</p> <p>各学年、各学級の年間指導計画の検証をした。系統的・段階的な指導ができるように、昨年度のキャリアノートを参考にしながら、それに付け加えて、より学級の生徒の実態に合わせた形を模索した。</p>

(3) 全校研修日の話し合いから

「各学級・学年で生徒の身につけたい力はなにか？」

グループでの話し合いから出てきたキーワード

自己理解 他者理解 ルールやマナーの理解
主体的な進路選択（意欲） 知識・技能の獲得 態度を育成

↑↓ 職業科の目標との整合性

勤労の意義について理解するとともに、職業生活に必要な能力を高め、実践的な態度を育てる。

学習指導要領解説から「実践的な態度を育てる」とは、～体験的な活動を通して、主体的に自分の力を発揮して働くことができるようになり、より自立的に社会参加しようとする態度の育成を図ることである。

一つ一つの言葉が意味するところを読み取りながら、自分らしく働くを実現できる授業を展開していきたい。



(4) 授業実践例

自分で考え、自分で解決する職業

1年A組 「自分の良いところを知ろう」

- ・「働くために必要な事柄（態度、技能、基本的習慣等）」を知る上で、自己理解を深めることを目的に、授業の中で「キャリアノート」を用いて自分の良いところを記入させたところ、多くの生徒が書き込むことができなかった。これは、自己肯定感や自己理解の低さによると考え、教材を変え、再度、自分の良いところを考えさせる時間を設けた。なお、この教材は、友達の良いところをそれぞれが書き込んで、各自、相手に渡し、受け取った側は、それらをプリントに貼付して一覧表にしていく、という活動として使用した。

2年B・C組 「自分の行動を将来に生かしていこう」「人とのつながりを考えよう」

- ・「自分で決めて、続けて取り組んでいること」を書きだすことが難しいと感じた。1学期初めに「毎日の生活チェックシート」に取組み、できないことに気づきできることを増やす生活を意識させた。次の学期初めに、「1学期の振り返りシート」と再度「毎日の生活チェックシート」に取り組んだ。
- ・人とのつながりの中で生活する将来につなげるために、産業現場実習の場面を想定しながら「こんなときに相手はどう感じるか」を考えさせた。それぞれが、自分の考えを発表しながら、それに対しての感想や意見の交換をすることができた。

3年D組 「社会人として必要な力」

- ・働くために必要なこと（あいさつ・相談・コミュニケーション・身だしなみ）はこれまでの授業で学んできて、生徒から挙げる事ができた。しかし、なぜ、それが必要なのかという意味や必要性の理解が不十分であった。ひとつひとつ必要性の理由を確認することで実行しよう、とする意識が感じられるようになった。

3年E組 「ネガポジ変換」

- ・社会人・職業人としての知識や技能を身につけることを目的とするとともに、物事を否定的に考えがちな生徒に対して、前向きに仕事や生活するための考え方を学んでほしいと計画した授業。ICT機器を活用して、生徒の考える力や生徒同士の対話を重視した。

6 成果と課題

1年A組

- ・一覧表にして確認することで、他者が自分をどのように捉えているかを知ることができ、生徒からは「自分では気づかなかった自分の良さを知ることができた。」「友達からこんなふうに思ってもらえていることがわかって嬉しかった。」など、自分の良さを客観的に考えられる機会となったようであった。その後の授業で、将来の夢や目指す職業を考える際、この教材を参考にし、自分の特技や良さを生かしていこうとする様子も見られた。

2年B・C組

- ・「毎日の生活チェックシート」の学習は、学期初めに継続して取り組むことで、できるようになったことの確認ができ達成感も味わうことができた。さらに自分の課題がわかり、それぞれの目標を明確にすることができ、自立した生活への意識付けができています。
- ・「自分の思い」が優先されがちな生徒達だが、「相手の思い」や自分が周囲からどのようにみられているかを考えることができた。また、自分は、家族、学校、職場、それぞれの場で多くの人とつながっていることにも改めて気が付くことができた様子だった。

3年D組

- ・なぜ必要なかを自分なりに掘り下げて考えることは難しかった。しかし、教師からの少しのヒントで、あいさつや身だしなみ、コミュニケーションの大切さを理解することができた。教師からのヒントだけではなくワークシートを工夫して「あ、そうか、だから必要なんだ！」と自分で気付けると主体的に知識を実践的なものにできていけるように感じた。

3年E組

- ・職業の授業以外の場面でも、ポジティブに物事を変換していくことを伝えていくと、授業を覚えており、捉え方にも少しずつ変化が見られてきた。(自己を理解するきっかけとして)
- ・今回は実習前後の事前事後学習とのつながりを意識しながら、年間指導計画を作成し、加除修正をしながら、単元を計画していったが、限られた時間の中で、いつどのタイミングで何を学ばせればよいのかの見極めは難しさを感じた。

7 まとめ

- ・グループでの活動を進めていく中で、キャリアノートを活用して、職業の時間でPDCAサイクルで工夫・改善を図りながら生徒達の知識や技能等を高めていくということではなかったかと思う。具体的に「態度を育てるとはどんなことなのか」、「態度を育てるための有効な手立てとはどんなことなのか」など、より職業について深く考えるきっかけにもなった。高等部職業科の授業の3年間の段階的・系統的な指導ができる指標として、生徒や教師のより見通しをもったキャリア教育が展開できるように押さえておくべき内容を大枠で整理していければと考えている。